



瀬沼さん

保障内容を  
確かめよう

### 災害に遭った仲間の声

【八王子・冷暖房・瀬沼 行彦さん談】先の台風24号で、自宅の屋根瓦が飛んでしまいました。

今回の被害で共済申請をしようと思いましたが、火災共済の家財保障が、火災共済の家財保障に入っていないことが明らかになりました。住宅ローン

家財道具を買い揃えるのにかかる一般的な必要額			
家族構成 世帯主年代	大人2人	大人2人 小人2人	单身
30歳前後	730万円	800万円	265万円
40歳前後	1210万円	1330万円	
50歳以上	1440万円	1560万円	

【どけん共済会発】一般的に、火災共済・保険の保障対象は、建物と家財に分かれます。建物の保障が、民間損保の火災保険加入者の約4割は家財保障がついていない、つけていても500万円以下の少額のケースが多数、という統計データもあります(火災保険比較コンシェル)。

火災共済や保険は、火災や自然災害に備える保障制度です。ご自身に必要な保障を把握し、加入している保障内容を理解しておく必要があります。

民間損保など他制度に加入している方も改めてご自身が加入している制度の保障内容を見直し、保障が不足している場合は、安価に加入できるどけん火災共済で補いましょう。

# 安心・安価などけん火災共済で



多摩市議会の岩永ひさか議長(右上)も上棟式に参加



フラダンスで盛り上がるステージ

フラダンス等を見物をしたこと、それから我が家がマスコックトドけんたろうを招いて子どもたちの人気を集めたことです。

例年ふわふわトランポリンが目玉でしたが、今年は上棟式をやったことによりチラシを見て会場を訪れた人がとても多く、餅まきの時にはもの凄く賑わいを見せました。途中小雨に見舞われましたが、無事出展ブースもすべて完売し住宅相談もとれて、大成功で幕を閉じることができました。

## 土建まつりは大成功

新宿 民商と合同で開催

【新宿・大工・隅田祐太郎 記】11月4日に土建まつりを、十数年ぶりに新宿民商工会との合同で、開催しました。2年前に同じ会場(鶴巻南公園)を1週間違いでお互いに使用して開催していたこと、新宿区長選によって当初予定していた日程で開催できなかったことから共催することに。事前の実行委員会から2カ月かけて打ち合わせをし、当日を迎えました。

今年の新たな取り組みは、まず他団体と共催したこと、木造軸組むき出しの棟式・餅まきをやったこと、ステージを作りフラダンス等を見物をしたこと、それから我が家がマスコックトドけんたろうを招いて子どもたちの人気を集めたことです。



好評だった高所作業車体験

杉並 1万人の来場者 D-1グランプリは東に

【杉並・書記・喜多正之通信】杉並支部は11月11日に東高円寺駅そばの杉並第十小グラウンド蚕糸の森公園で「第18回東京土建まつり」を開催しました。

来年2月で再編を迎える全13分会が出し物を競うD-1グランプリでは、模擬店の他、丸太切りやカンナ削り体験も行なう分会がある中、栄光は東分会のチョコバナナに。

支部企画は建設業らしきにもこだわりの、各職体験コーナーで本物の塗装職人と左官職人が壁塗りを指導。職人が同乗しパワーショベルで空缶缶を取る運転体験や高所作業車体験も好評。住宅相談コーナーでは建築カレッジ生の作品の他、震災復興支援活動パネルも展示、防災への備えも訴えました。

協力団体も出店し、阿波踊りが会場を一周して雰囲気盛り上げ、午後3時、ステージからのお菓子まきで終了。杉並区役所代表や都議、区議も訪れ、10000人の来場者を迎え、盛大に地域に東京土建をアピールし、仲間の絆を深めた一日でした。

# 祭

20回目の環境フェス 子どもは創作活動に夢中



ビーズを散りばめ手形づくり

【台東・書記・吉田 啓一通信】11月10日、11日に台東区生涯学習センターで「環境フェスタたいとう」に参加しました。今年も「見直そう当たり前前、〇〇にありがとう」をメインテーマに行なわれ、50ブースの出店と来場者は1万人を超えるイベントとなり20回目になりました。

【多摩・稲城・書記・鈴木 寛次通信員】11月11日に多摩・稲城支部主催の「どけんまつり」を開催。会場はこれまで稲城市から多摩市に移り、多摩センター駅近くの多摩前広場で盛大に行ないました。天候に恵まれた当日は地元多摩市の阿部裕行市長の他、多くの来賓に足を運んで

【多摩・稲城 新会場で大成功】今年が多摩市で盛大に

【台東・書記・吉田 啓一通信】11月10日、11日に台東区生涯学習センターで「環境フェスタたいとう」に参加しました。今年も「見直そう当たり前前、〇〇にありがとう」をメインテーマに行なわれ、50ブースの出店と来場者は1万人を超えるイベントとなり20回目になりました。

支部でも昨年同様に子ども向けのものを企画。例年の場所から移動し7〜8倍となるゆったりできるスペースと多くの来場者により広さを感じさせないほど大盛況でした。ワークショップは手形制作と松ぼっくりやドングリを使ってのオブジェ作り。材料の箱を開けると、収穫した参加者の沢山の松ぼっくりとドングリで圧倒されました。赤・黄・緑・青・金・銀のバスケットカラーをスプレーした松ぼっくりが創作意欲を刺激したようで、ドングリやビーズと組み合わせる思いの物を作っていました。

手形は額にじっくり話をしたものに手を押し付け、余白スペースに名前やビーズを散りばめて完成。毎年来る子どももいて小さい頃の思い出が出たことでした。